

平成 27 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520511

研究課題名(和文)現代における和語名詞の表記の実態とその背景に関する調査研究

研究課題名(英文)A study for

研究代表者

笹原 宏之(SASAHARA, Hiroyuki)

早稲田大学・社会科学総合学院・教授

研究者番号：80269505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：現代の各種メディアの中で、和語(やまとことば)がいかなる文字によって表記されているのかという実態について、普通名詞を中心に把握し、それらにおいて表記上の揺れを生じさせる原因に関して究明した。意識される種々の条件と表現上の効果の差などについても分析した。さらに和語の表記に関する各種資料や意識に関する調査の結果、改定常用漢字表やマスメディアにおける表記規則、さらに辞書類における掲出表記や記述などとも関わることを具体的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Native Japanese words are written in kanji, hiragana and katakana. I analyzed the causes that give rise to variations in the notation. It was clarified that there are the various effects of the awareness of the users, the jouyou kanji, many other kanji tables and dictionaries.

研究分野：日本語学

キーワード：やまとことば 漢字 表記の揺れ 同訓異字

1. 研究開始当初の背景

かねてより日本語の文字、とりわけ漢字にかかわる種々の実態を解明するために、通時、共時の双方の観点から調査研究を実施してきた。漢字については、字種、字体、用法の各面の考察に加え、語をいかに表記するかという文字の本質の即した視座が重要であることも明らかにしてきた。日本語の文字の多様性は、世界でも随一の複雑な表記法を生み出しているが、その実態と背景の体系性を有する多角的な解明は、学界においてなお十分にはなされていない状況にある。

現代の日本語を表記するための要素としての文字は数千種に及ぶ。文字体系には、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字などの文字種が含まれ、ことに漢字は各々がさらに複数の用法を有するという複雑な原則をもつ。文字種は語種と一致する傾向、すなわち漢語は漢字、外来語は片仮名、和語は平仮名ないし訓をもつ漢字などという対応には一般的な傾向が観察される。しかし、例えば和語は、ある漢字の訓読みとして定着していればそれで記す、という原則を突き崩す動きも確認できる。

すでに漢語や学術用語の表記、一部の和語の国字や当て字による表記などに関し、調査を進めて公表してきたが、和語表記の揺れの現実とその原因に関しては、極めて多くの要因が関連し、さらにその要素は多様な複合を起こしていることが予測される。

そうした和語表記の実態に関して、例えばすでに新聞や雑誌のあるサンプル箇所に限った成果も示されているが、上記の揺れの要因に関する分析は多角的にはなされていない。同訓異字やカタカナ表記という観点からの調査もすでに見られるが、より広い視座をもつことにより和語に関して体系性をもって把握することが必要である。他領域における表記差の効果に対する研究も参考にな

るが、なお個別性が高く、十分な結論を得ているとはいえない。このように和語の表記の揺れについては、網羅的に検討されることが多くはなく、類型化が試みられる機会も少なかった。

2. 研究の目的

当研究は、「常用漢字表」の改定(2010)など、漢字を巡る社会的環境に変動のやまない現代において、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど実際に存在している各種のメディアの中で、和語(やまとことば)がいかなる文字によって表記されているのか、という実態について、普通名詞を中心に把握するとともに、その表記上に揺れを生じさせる原因を明らかにする。そのために、日本語を表記する上で意識され、あるいは根拠とされる種々の条件、それらと実際の表現上の効果の差などに関して考察を加え、さらに誤読、誤解などの問題の起こりにくい表記形とはいかなるものであるのかということについて、種々の観点から検討を行うものである。

3. 研究の方法

新聞全国紙を対象に、普通名詞を中心とする和語の表記についての使用実態調査を行う。テレビ番組、月刊誌、週刊誌など雑誌、インターネット上の各種のホームページやブログ、ツイッター等に対しても、同様の調査を行う。そうして得られた和語の名詞の表記形の実例に対して、各々の表記上の揺れや違例を生じさせたと見られる要因を設定し、それらについて多角的な検討を加える。

そうした手法を通して、和語における種々の表記が生み出されるメカニズムを追

究する。さらに、見出された法則性を基に、日本語の表記として問題を生じやすい表記形とその要因に関する探究する。

4. 研究成果

種々のメディアにおいて現れた和語の表記の揺れの実情と、その原因に関して、言語、文字、心理、生理、物理、通時などレベルを異にする種々の内在的、外在的な因子の存在を確認し、それらが機能し、生み出す影響を具体的に捕捉した。「常用漢字表」の改定(2010)など、漢字を巡る社会的環境が変動しつつある中で、その同訓異字などの漢字政策と現実の趨勢とが、表現や読解の正確さ、効率性などを求めて相互に循環する現象も複数見出され、誤解を回避しうる表記に関する知見なども得られた。

こうした和語に関する多彩な現象とそのメカニズムを生み出している要因の把握により、世界でも随一の複雑さを有する日本語表記の多様性に関する全体にわたる今後のより精緻な理解に向けて貢献するものと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

菅原宏之、日本における漢字に対する加工とその背景、HUMAN7(無)、58-65、2014

菅原宏之、「地元」を表すことばをめぐって、都市問題 105(無)、4-8、2014

菅原宏之、現代の文字生活と異字同訓、日本語学 33-10(無)、46-54、2014

菅原宏之、漢字の異体字の攻防、日本語学 33-2(無)、60-77、2014

菅原宏之、現代の韓国の漢字・日本の漢字、韓国文化研究 25(有)、249-263、2013

菅原宏之、歴史上の人物名と書名等の読み方、日本医事新報 463(無)、64、2013

菅原宏之、汉字圈里的造字与传播 -以“鲍·鲍”为中心、漢字研究 7(有)、131-162、2012

菅原宏之、男性名「~お」(夫・男・雄・を等)の歴史、日本医事新報 4613(無)、62-65、2012

菅原宏之、日本製漢字の変遷と形成方法、東洋学 52(有)、263-287、2012

[学会発表](計 5 件)

菅原宏之、国字(日本製漢字)と誤認されてきた唐代の漢字 佚存文字に関する考察、国際シンポジウム 東アジアにおける漢字漢語の創出と共有、2015年 3月 21日、早稲田大学(東京都)

菅原宏之、人名と漢字、漢字研究の最前線「木簡と人名の漢字について」、2014年 9月 13日、諸橋轍次記念館(新潟県三条市)

菅原宏之、汉字圈里的造字与传播 -以“鲍·鲍”为中心-、第 4 届「韓中日漢字文化學術國際論壇」學術大會、2012

年 8 月 25 日、済州大学校(韓国済州道)

笹原宏之、「串」字探源 --以「串」表
扌子之意为中心、第 3 届「漢字與漢字教
育」國際研討會、2012 年 8 月 18 日、北
京師範大学(中国北京市)

〔図書〕(計 11 件)

著者名、出版社名、書名、発行年(西暦)及
び総ページ数(共著の場合は最初と最後の
頁)を記入すること。

笹原宏之、NHK 出版、漢字に託した「日
本の心」、2014、270

笹原宏之、漢字の歴史、筑摩書房、2014、
201

笹原宏之、訓読みのはなし 漢字文化と
日本語、角川学芸出版、2014、254

笹原宏之、漢字と日本語の文化史、NHK
出版、2013、191

笹原宏之、方言漢字、角川学芸出版、2013、
253

笹原宏之、漢語表記のゆれ、現代日本漢
語の探究、東京堂、2013、261-287

笹原宏之、日本語の文字・表記、日本語
学・日本語教育 3、J & C(韓国)、2013、
121-154

笹原宏之、クシを意味する「串」の来歴、
中国語学論集、好文出版、2013、66-78

笹原宏之、CON NGUOI VA XA HOI
DUOI GOC NHIN CUA VAN TU HOC、

BON MUOI NAM Dao tao va
Nghien cuu、2013、199-220

笹原宏之、異体字・国字の出自と資料、
漢字字体史研究、2012、341-366

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 笹原 宏之

(SASAHARA, Hiroyuki)

早稲田大学・社会科学総合学
術院・教授

研究者番号: 80269505

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：